

二〇二二年度入学試験

# 国語試験問題

## 注意事項

- 一、指示があるまで開かないこと。
- 二、問題は八ページである。万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
- 三、解答用紙は解答用紙A(マークシート)と解答用紙B(記述式)の二種類である。
- 四、解答はすべて解答用紙に記入すること。
- 五、解答用紙には座席番号、氏名を忘れずに記入すること。
- 六、解答用紙A(マークシート)の記入にあたっては、次の事項について注意すること。
  - ・ HBの鉛筆またはマークシートペンを使用すること。(シャープペンシルは不可)
  - ・ 解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから記入すること。
- 七、試験問題は持ち帰ること。

次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。設問の都合により、段落番号を付す。

1 受精卵が分裂し分化して器官の形成が進んでいき、体が完成すると、後は「ア」古い細胞と新しい細胞の入れ替えを繰り返します。入れ替えの a は、組織によって異なります。一番短いのは腸管内部の表面のヒダヒダにある上皮細胞で、数日に入れ替わります。皮膚が四週間、血液が四カ月、一番長いのは骨の細胞で四年で全てが入れ替わります。

2 ですので、ヒトの体の細胞は四年でほとんど新しいものと入れ替わり「別人」となってしまいうわけです——というのは「イ」で、徐々に老化した細胞から順番に入れ替わるので、姿形が変化することはありません。

3 加えて、体細胞でも例外的に入れ替えをしない組織もあります。それは心筋と神経細胞です。心臓を動かす心筋細胞は、生まれてから大きく大きくなることはあっても数が増えることはありません。脳や脊髄を中枢とし全身に信号を送る神経細胞は幼少期が一番多く、その後は基本的に減っていくばかりです。もし脳の神経細胞が入れ替わったら、記憶が維持できなくなり、「ウ」ですね。心(心臓と脳)は生涯ずっと変わらないのです！

4 心臓と脳は傷ついたら「エ」ですが、他の組織は幹細胞が新しい細胞を作るので、いつも若々しく維持できます。しかし実際には、加齢に伴い機能が徐々に低下していきます。

5 その理由の一つは幹細胞の老化です。新しい細胞を供給するとき、幹細胞は、二つに分裂して一つは幹細胞、もう一つが皮膚の細胞を作ります。皮膚の細胞はまた二つに分裂して今度は二つの皮膚の細胞を作りますが、b に戻ることはありません。幹細胞は基本的にはいつも一定量維持されています。

6 しかし、加齢とともに幹細胞も老化します。老化した幹細胞は、分裂能力が低下して十分な細胞を供給できなくなります。一番影響が出るのは、新しい細胞を大量に必要とする血液や免疫細胞を作る造血幹細胞などです。免疫に関わる細胞の生産が低下すると、感染した細胞や異常細胞の除去ができにくくなります。

7 もう一つ、加齢による組織の機能低下の原因は、老化した体細胞がばらまく毒<sup>III</sup>です。組織の細胞の入れ替えのためには、

新しい細胞の c に加えて、老化した古い細胞の除去が必要です。老化細胞の除去には、(1)細胞自身が「アポトーシス」という細胞死を起こして内部から分解して壊れる、(2)免疫細胞によって食べられて除去される、の二通りありますが、加齢した個体の老化細胞はこのような除去が起こりにくく、そのまま組織にとどまる傾向があります。

8 この老化した残留細胞が d で、周りにサイトカインという物質を撒き散らします。本来サイトカインは、傷ついたり、細菌に感染された細胞が、それらを排除するために炎症反応を誘導し免疫機構を e させる働きがあります。しかし、組織の老化細胞から放出された場合には、炎症反応を持続的に引き起こし、その結果臓器の機能を低下させ、糖尿病、動脈硬化、がんなどの原因となることが知られています。つまり、老化細胞がそのまま排除されずに残ると、組織を害し器官の機能を低下させるのです。

9 <sup>IV</sup> 以上のような体細胞レベルの機能低下が組織の働きを悪くし、最終的に脳や心臓の血管、肝機能や腎機能などを低下させ、「老いた」状態を作り出し、「オ」ヒトを死に追いやるのです。

(小林武彦『生物はなぜ死ぬのか』による)

問一 問題文全体を二つに分けるとしたら、二つめほどの段落から始まるか、その段落の番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

問二 「ア」「オ」に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

用紙A)

- |   |      |   |      |   |       |   |      |    |      |
|---|------|---|------|---|-------|---|------|----|------|
| 1 | いいすぎ | 2 | おおごと | 3 | おおわらわ | 4 | すぐさま | 5  | それぞれ |
| 6 | それきり | 7 | ひたすら | 8 | ひとえに  | 9 | ほんとう | 10 | やがて  |

問三

〔解答用紙A〕

a

e

に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。

- |   |   |     |   |     |   |     |   |   |     |   |     |   |      |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|---|-----|---|-----|---|------|
| a | 1 | 契機  | 2 | 周期  | 3 | 方法  | b | 1 | 幹細胞 | 2 | 体細胞 | 3 | 分裂細胞 |
| c | 1 | 供給  | 2 | 分裂  | 3 | 維持  | d | 1 | 複雑  | 2 | 奇妙  | 3 | 厄介   |
| e | 1 | 適切化 | 2 | 無効化 | 3 | 活性化 |   |   |     |   |     |   |      |

問四

波線部Ⅰの「加えて」と波線部Ⅱの「しかし」は、その前後の内容を結び付ける働きをしているが、それぞれの結び付け方としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

I 1 体細胞のほとんどが入れ替わるにもかかわらず、入れ替わらないものがある。

2 体細胞には入れ替わるものがあるいっぽうで、入れ替わらないものもある。

3 体細胞には入れ替わるものがあるだけでなく、入れ替わらないものもある。

4 姿形が変わらないだけでなく、体細胞も変わらないものがある。

II 1 幹細胞は、加齢しても維持されているけれども、その状態は変化する。

2 心臓と脳の細胞は老化しないけれども、それら以外の幹細胞は老化する。

3 皮膚の細胞は入れ替わるけれども、幹細胞は入れ替わらずに老化する。

4 幹細胞は新しい細胞を生産するけれども、古い細胞を排除できなくなる。

問五

波線部Ⅲの「毒」が表わしているものとしてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 アポトーシス
- 2 サイトカイン
- 3 アポトーシスとサイトカイン
- 4 免疫細胞

問六 波線部Ⅳの「以上のような体細胞レベルの機能低下」の説明としてもっとも適切なものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 臓器の機能一般の低下
- 2 臓器の回復機能の低下
- 3 細胞の分裂機能の低下
- 4 細胞の免疫機能の低下

問七 次のA～Eの内容に関して、問題文の趣旨と一致している場合は1、一致していない場合は2をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- A 細胞の入れ替えは体の外側のほうが内側より早い。
- B 心筋細胞と神経細胞は、生まれた時から数に変わりがない。
- C 細胞が正常に機能しなくなることが、老化である。
- D 自然に老衰して死ぬことを防ぐ方法はない。
- E 細胞の入れ替えが続く限りは、死なない。

二 次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。

わたしたちがファッションとしての衣服を身に着けることへの欲望はいろいろあるにしても、まずは、文字どおり「装う」ことへの欲望を①「**又**」<sup>(i)</sup>きにはできない。②「装う」こと、つまり何かを身に着けるという③「**も**」<sup>(ii)</sup>つとも明確な行為として「**装**」があるわけだけれど、<sup>(iii)</sup>あらゆるファッションへの欲望もまた、大なり小なり「**扮装**」に結びついていて、だからこそファッションは「**い**」<sup>(iv)</sup>かがわしきものという④「**オ**」<sup>(v)</sup>名をいまだどこかに負っているのだし、たとえばファッションにとりわけ気を使う「**オシヤレ**」な男など信用できないという気分があつたりするのではないか。しかし目立とうが目立つまいが、新しからうが古からうが、職業的特性を表現していいがいまいが、ファッションとしての衣服を身に着けることへの欲望は「**扮装**」することの欲望に関わっていることは否定できない。【1】

してみれば、わたしたちが身に着けるファッションと、《ア》<sup>③</sup>「**ゲキ**」におけるコスチュームとを区別するものはその本質において何もないと言えよう。《イ》ファッションの問題を今日的演ゲキ論の視点から語ることもまた興味のあることだ。

《ウ》ファッションは、わたしたちを「らしき人間」に変える。《エ》、少なくとも社会的な存在としてのわたしたちにとって、<sup>(注1)</sup>「らしき人間」とそうではない人間とを区別するものもまた、その本質において何もない。「らしき人間」という問題は、わたしたちの自己同一性(アイデンティティ)の問題に深く関わっている。《オ》、「**い**」<sup>(注1)</sup>かがわしき扮装行為の小道具であるファッションは、<sup>(注1)</sup>実のところわたしたちの自己同一性を④「**キ**」<sup>(注1)</sup>定していると言わなければならない。ロラン・バルトによれば、「衣服は人間を表現せず、それを構成する。あるいはむしろ、よく知られているように、人間とは自分が欲するイメージにはかならず、衣服はこのイメージを信じることを可能にする」のである。わたしたちは、父親や母親らしきものを装い、若さや新しさや、実直さや自由さ、そしてあらゆる「らしき」<sup>(注2)</sup>を生きようとする。そのために、それらしきファッションを欲望する。そしてファッションは、わたしたちが欲望する自己同一性のイメージを信じさせてくれるのである。【2】

<sup>(注2)</sup> I 日本近代化が、知られるように鹿鳴館<sup>(ろくめいがん)</sup>以来ファッションを⑤「**トモナ**」つていたことは、まさに国家が西欧的なるファッション

を通してそれらしき自己同一性を求めたからにはかならない。また日本の戦後が、それまで以上に共同体的なものからのとめどない脱コード化あるいは脱属領化（デトリリー）を徹底させて行なったことと、わたしたちがかつてないほどにファッションに執着しはじめた時代であったことはけっして無<sup>⑥</sup>エン<sup>⑦</sup>ではないだろう。というのも、戦後日本における共同体のとめどない<sup>⑦</sup>ホウ<sup>⑧</sup>壊<sup>⑨</sup>（脱コード化）——もちろんそれは戦後にはじまるのではなく、明治期から進行するのだが——は、一方で個人の存在（自己同一性）を徹底してあやふやなものにしていったからだ。かつて存在をつなぎとめ、価値づけていたのは共同体だった。【3】

してみれば、戦後日本のわたしたちが自己同一性と関わるファッションにそれまで以上に強く執着したのも不思議はない。繰り返すが、ファッションは、わたしたちが何者かのあるべき存在を信じさせるからだ。そして、八〇年代がかつて見なかったような形での、ファッション（注3）のDCブランド化という現象を惹ひき起こしていたのだとすれば、自己同一性を<sup>⑧</sup>キ<sup>⑨</sup>求して彷徨（ほうこう）するわたしたちの欲望がいかなる状態にあったかはおくとして、それまで以上に激しいものになっていたのだと言えないか。明治以後、そして戦後、それまでになく徹底して進行する共同体を含めた伝統的価値システムの脱コード化は、もちろん資本の論理によっているのである。そしてその脱コード化は、無限かつ無原則に徹底されるのももちろんなく、資本の論理によって再<sup>II</sup>コー<sup>III</sup>ド化<sup>（再編）</sup>されるのである。そうした脱コード化と再コード化の運動と、ファッションの問題は無エンではあるまい。【4】

ところで、装うことへの欲望、つまり自己同一性を求めることへの欲望もまた、わたしたちの社会的欲望と関わっていることは言うまでもない。だからこそ、ファッションもまた、社会的意味の体系を構成しているのだと言える。<sup>⑨</sup>ホウ<sup>⑩</sup>大な資料（ファッション雑誌）を通して、モードにはまさにモード（法）的意味の体系があり、それがモードの世界を構成しており、そして現実のイデオロギーがそのモード世界に降り来たっている様相までも、信じがたいほどの緻密（ちみつ）さでロラン・バルトが分析してみせたことは、知られているとおりのだ。その社会的意味の体系と関わっているわたしたちの欲望は、悲しくも<sup>III</sup>二つの極へと引き裂かれていた。わたしたちの欲望は、他者のまなざしによって自らの存在を確認することへの、いわばナルシステイックな欲望である。誰かに見守ってもらいたいという欲望と言ってもいいだろう。したがって、わたしたちは他者との差異（違い）を欲望しつつ、その結果、他者の欲望するものを欲望するがゆえに、他者と同一化する。差異と同一化という両極へと、わたしたちの欲

望は、メビウスの輪のような奇妙な形にねじれて引き裂かれてしまうのである。それは自らの存在を確認させるまなざしを持つ他者の欲望が、本質的な面で「主体のモデル」だからだ。こうした欲望を、たとえば、ルネ・ジラールは「模<sup>⑩</sup>ホウ」的な欲望」としている。

(柏木博『ファッションの20世紀 都市・消費・性』による)

注1 ロラン・バルト——一九一五—一九八〇。哲学者。

注2 鹿鳴館——明治初期に建てられた洋館。上流社会の社交の西洋化を図り、外国貴賓の接待・宿泊施設として用いられた。

注3 DCブランド——一九八〇年代に日本国内で社会的なブームとなった高級ファッションブランドの総称。デザイナーの個性を活かした、定番を作らない多品種少量生産の服作りを志向した。

注4 ルネ・ジラール——一九二三—二〇一五。文芸批評家。

問一 ①～⑩の□の中のカタカナ部分を、それぞれ適切な漢字に改めなさい。〔解答用紙B〕

問二 波線部(i)～(v)の語の品詞を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- |   |     |   |      |   |    |   |     |   |     |
|---|-----|---|------|---|----|---|-----|---|-----|
| 1 | 形容詞 | 2 | 形容動詞 | 3 | 副詞 | 4 | 連体詞 | 5 | 助動詞 |
|---|-----|---|------|---|----|---|-----|---|-----|

問三 問題文は次の一文が省略されている。問題文中の【1】～【4】のどこに入るか、その番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

それを失ったわたしたちは自らの自己同一性を求めてむなしく彷徨うのである。



問四 《ア》《オ》に入る語を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 たとえば
- 2 しかし
- 3 したがって
- 4 つまり
- 5 ともあれ

問五 傍線部Ⅰの説明としてもっともふさわしいものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 個人の自己同一性とは何かが問われるようになったこと。
- 2 伝統的な共同体による根強い抵抗を受けるようになったこと。
- 3 ファッションへの関心が女性だけでなく男性にも広がったこと。
- 4 共同体の解体により個人の価値が結果的に高まったこと。

問六 傍線部Ⅱの説明としてもっともふさわしいものを、次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

- 1 旧来の価値が完全に否定されるようになること。
- 2 売れ筋の価値が輸入されるようになること。
- 3 旧来の価値が再発見されるようになること。
- 4 新しい価値が付与されるようになること。

問七 傍線部Ⅲの内容を具体的に言い換えている箇所を、問題文中からそのまま抜き出しなさい。〔解答用紙B〕

問八 傍線部Ⅳは、問題文の筆者によれば、ある逆説のうえに成立している。どのような逆説か、解答用紙に合わせる形で、二

○字～二五字で示しなさい。その際、「自己同一性」「他者」「必然」の三つの語を必ず用いること。〔解答用紙B〕